

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700121		
法人名	株式会社 ユニマツト リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	天神川ケアセンターそよ風 (東フロアー)		
所在地	京都府京都市右京区西院西田町61番地		
自己評価作成日	平成29年2月14日	評価結果市町村受理日	平成29年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690700121-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690700121-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

櫻の名所と言ってもいいぐらいの天神川の桜並木は、最高です。その桜を毎日窓から眺められる場所に立地している施設です。他には、保育園・学校・公園が近くに立地しており、散歩に出掛けたりして地域の方とのふれあいも大切にしています。家族・入居者の思いを大切にその人らしい暮らしが送れる様に、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は「いつもあなたのそばにいて、思いをわかちあいたい、いつも笑顔で私らしくおだやかに生きる」と理念に謳い、職員は利用者による暮らしを大切にしたいと考え家族のような関係が築けるよう利用者に寄り添い、共に笑顔で過ごせるよう理念の実践に向けて取り組んでいます。職員間のチームワークは良好で日頃から意見や提案も出しやすく、外出レクリエーションや利用者に対する支援方法など様々な意見が出され、業務改善やサービスの向上等に繋がっています。また、夏祭りやクリスマス会には家族会を兼ねて参加してもらい活発に話し合いを行い、家族の思いを大切に日々の支援に反映させています。地域からも観桜会の案内を受け、弁当や場所の確保をしてもらい住民の方と一緒に花見を楽しむなど地域との関わりも広がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3ぐらいの 3. 利用者の1/3ぐらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3ぐらいと 3. 家族の1/3ぐらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3ぐらいが 3. 職員の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3ぐらいが 3. 家族等の1/3ぐらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践に繋がるように努力しています。	法人の基本理念を基に職員で案を出し合い、利用者に寄り添いその人らしく暮らしてもらいたいとの思いを含め事業所独自の理念を作っています。新任入職時には理念について説明を行い、職員は常に理念を意識しながら日々の支援にあたっています。毎月のケース会議とユニット会議で振り返りを行い理念の実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が施設を利用したり、地域行事に参加して交流をしています。	回覧板や運営推進会議等で地域の情報を得て区民運動会の見学や観桜会、敬老会等に参加するなど地域の方と交流を図っています。祭りの神輿が事業所の前を通ってくれたり地蔵盆には寄付をしたり、婦人会からは年3回散らし寿司や炊き込みご飯などの弁当を低料金で届けてもらうなど地域との関わりが広がっています。併設の事業所に日本舞踊や大正琴、マジックショー等のボランティアの来訪や保育園児、小学生の訪問があり参加させてもらい交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事に入居者様も参加して頂き理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かせるように努めている。	会議は町内会長や老人会代表、婦人会、地域包括支援センター職員等の参加があり、2か月に1度開催しています。利用者の状況や行事、職員研修、事故報告等を行い意見交換をしています。地域の情報をもらい参加したり、近隣からの苦情に対しては検討し改善するなど、運営やサービスに活かせる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出来る限り協力出来るように努めている。	運営推進会議議事録は直接窓口に届け、事故報告や入退居の報告で出向くこともあります。わからないことや相談事があれば電話で問い合わせ、アドバイス等もらっています。市から研修会や会議の連絡を受け、できる限り参加をし、情報を得るなどの連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会・会議などで意識向上に努めています。	年1回身体拘束に関する法人内の研修を全職員が受講し、参加できなかった職員については資料を参考にレポートを提出することで周知しています。事業所内の勉強会で言葉による拘束について学び行動を制止しないケアに心がけています。不適切な言動が見られた場合は職員間で注意をしています。外に出たい要望がある時は職員が付き添ったり、ユニットを行き来するなど気分転換を図るようにしています。	

天神川ケアセンターそよ風(東フロアー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会・会議などで意識向上に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などで学ぶ機会を持っています。今のところ活用されていないと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得して頂いていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話易い機会や雰囲気を作り、意見を言ってもらっています。それらを運営に反映出来るように努めています。	家族の面会時に利用者の日々の様子を伝え、意見や要望を聞くようにしています。夏祭りやクリスマス会には家族に参加してもらい話し合いをするなど意見や要望を出せる機会を設けています。外出や運動についての要望が挙がり外出の機会を増やすなど、その都度改善に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ユニット会議などで意見や提案を聞く機会を設け反映出来るように努めています。	併設事業所と合同の全体職員会議やユニット会議、日々の業務の中で意見や提案が出され、会議では出された意見等を検討する場にもなっています。食材の購入方法についての提案や業務内容についての意見が挙がり、業務改善等に繋げるなど出された意見を反映するよう努めています。また、定期や随時の面談を行い希望等を聞く機会としています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	十分とは言えませんが、内外の研修会に参加して頂いています。		

天神川ケアセンターそよ風(東フロアー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十分ではありませんが勉強会・研修会などに参加しサービスの質を向上出来るように努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や意見に耳を傾け、安心して生活して頂けるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望に耳を傾け、本人が安心して生活して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は一緒に行い、共に暮らしていけるような関係を築いて行けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の時間を大切にしながら、共に協力できるような関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力をえて支援に努めています。	友人や親戚の面会時には居室に案内しお茶や椅子などを用意し、ゆっくりと過ごしてもらえよう配慮しています。日々の会話の中から希望を聞き取り、馴染みの食堂やスーパーなどに個別や少人数で出かけています。親戚からの電話の取次ぎをしたり、墓参りや法事など家族と外出する際は日程調整や身支度等の支援を行っています。	

天神川ケアセンターそよ風(東フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフも間に入り関わりをもち、支え合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	十分ではありませんが出来る限りの支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を把握し、出来る限り本人本位の暮らしが出来るように支援している。	入居前の面談で利用者や家族から生活歴や趣味、好きなこと、これからの暮らしの意向等を聞きアセスメントシートに記載し、病院からの医療情報等も参考にしています。入居後は利用者との会話や表情等から思いを汲み取り、気が付いたことなどを記載し職員間で話し合い思いの把握に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限る把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況や記録にて現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議でカンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の意向、アセスメントを基に介護計画を作成し、入居後は1か月で見直しを行い、毎月モニタリングを実施し、利用者の状況に応じて3か月または6か月毎に見直しを行っています。見直しの際は再アセスメントとサービス担当者会議を開催し、事前に聞いた家族の意向や必要に応じて医師や看護師の意見を反映させ介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしています。		

天神川ケアセンターそよ風(東フロアー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天神川の桜・公園・学校などを通して楽しむ事ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の訪問診療により適切な医療を受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医を継続できることを説明し全員が協力医に変更をしています。協力医の往診は月2回あり、24時間連絡可能となっており体調の変化等があれば指示を仰ぎ、随時の往診もあります。受診は家族が対応していますが、必要に応じて職員が同行し、受診結果は口頭にて互いに報告しています。訪問歯科、訪問マッサージは希望に応じて受けてもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制のもと適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談が出来るような関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・医療機関と話し合いチームで支援に取り組んでいる。	入居時に看取り指針について説明を行い、同意を得ています。重度化した際は医師や家族、職員で話し合いを重ね、都度意向の確認を行い方針を共有しています。今までに看取り支援の経験もあり、毎日医師に状態の確認をしてもらいながら取り組み、ケース会議にて振り返りを行い、本や資料を基に自己研修をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習や緊急時対応マニュアルに基づき対応が出来るように努めています。		

天神川ケアセンターそよ風(東フロアー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練の実施・マニュアルによる対応が出来るように努めている。	年2回併設の事業所と合同で消防訓練を実施しています。内1回は消防署立ち合いの下、昼間想定で通報、初期消火、避難誘導等の訓練を動ける利用者と一緒にしています。事業所独自の訓練は夜間を想定し避難誘導等を行っています。運営推進会議で案内と報告を行い、地域の防災訓練にも参加しています。また飲料水やご飯、缶詰、レトルト品、乾パン等の備蓄をしています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分ではありませんが、一人ひとりの人格を尊重しあつ対応に努めています。	全職員対象の接遇に関する法人内研修を受講し、不参加者は資料をもとにレポートを提出することで周知に努めています。日頃から尊厳を持った言葉遣いに心掛け名前は苗字で呼ぶようにしています。希望により下の名前で呼ぶこともあります。トイレ誘導時の声掛けにも配慮し、不適切な対応があれば、その場で管理者が注意をしたり、職員間で互いに注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分ではありませんが、希望に沿った支援が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや力を活かし一緒に楽しめるように支援している。	献立は利用者の好みを聞き、旬の食材やバランスを考慮し職員が立てています。芋の皮むきや豆のすじとり、盛り付け、味見、食器洗いなど、できることに携わってもらい、職員と同じ食卓を囲み食事を楽しんでいます。誕生日には利用者の好みの物を作ったり、出前や弁当をとったり、ホテルのランチや寿司などの外食を楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来る限り、一人ひとりに合った支援をしている。		

天神川ケアセンターそよ風(東フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療や個々に応じたケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンに合った支援をしている。	トイレでの排泄を基本としており、排泄チェック表を基に個々のパターンを把握し、声掛けやトイレへ案内することで失敗が軽減しています。日中は布の下着で夜間は紙パンツに切り替えるなど一人ひとりに合わせた支援を検討し自立に向かうよう取り組んでいます。排泄用品については随時検討を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた予防や対応をし工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間の制限はありますが、無理なく楽しく入浴して頂けるように支援しています。	入浴は週2回以上を目途に日中にゆっくりと入ってもらえるよう支援し、希望があれば回数を増やすことも可能です。好みのシャンプーを使用したり、柚子湯やバラ湯で季節の香りを楽しんでもらっています。併設のデイサービスの大浴場で露天風呂の雰囲気味わってもらうこともあります。入浴を断られる場合は声掛けに工夫し時間や日にちを変えるなどタイミングを図り無理のない入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に安眠や休息して頂けるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を共有し、管理・支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	十分ではありませんが、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援しています。		



天神川ケアセンターそよ風(東フロアー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	十分ではありませんが、2ヶ月に1回は外出や、家族様と外出、出来るよう支援しています	地域の行事に参加したり、天候の良い時は散歩や買い物に出掛け、回覧板を届けたり、ゴミ出しをするなど日常的に外に出る機会を作っています。初詣や桜の花見、紅葉ドライブなど季節毎の外出の他、回転ずしやレストランなどへの食事外出なども楽しんでいます。また、希望で近隣の理髪店へ出かけたり、家族と外食するなど個別外出の機会も設けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物・外食など一緒に行くなどして支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	掛かって来た電話に出たり、携帯電話で家族と話して居られます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を感じて頂けるよう工夫しています。	リビングは大きな窓から日差しが入り、カーテンで調節をしています。利用者と一緒に貼り絵や折り紙で作った雛飾りを壁に貼り季節を感じてもらっています。日々掃除や換気を行い、加湿器や温湿度計を置き利用者の体感を聞きながら快適に過ごせるようにしています。テーブルの配置は随時変更し、少し離れた場所にソファを置き、ゆっくりと寛いで過ごせるように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出生きる限り思い思いに過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分ではありませんが、馴染みの物を取り入れ居心地よく過ごせるように工夫しています。	今までの馴染みの物を持ってきてもらうように説明し、テーブル、椅子、テレビ、洋服タンス、などを持ち込まれ、家族と相談をしながら配置を決めていますが、危険性や動線等を考慮しながら家族と相談し変更することもあります。家族の写真やぬいぐるみ、花器など大切な物や趣味の物をそばに置き、安心して暮らせるよう配慮しています。生活習慣に合わせ布団を敷き休む方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分ではありませんが、安全な環境づくりに工夫しています。		